

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程において、工業教育の特色を生かし、社会で必要とされる専門性の向上を図る教育課程を提供する。 自ら課題を発見し解決する力の育成と主体的に学ぶ意欲の向上を図る。 学校行事や生徒会活動を通じ、自他の多様性を尊重させ、生徒の主体的な活動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 深い学びを実現するため教育課程の再検討と職員のICT活用率向上を目指す。 自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って取り組み、資格取得やコンテストへの意欲の向上を図る。 生徒会行事の運営を通して、生徒の自立心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の再検討を行い、より深い学びを保証する教育課程を策定する。職員のICT活用が進まない原因を洗い出し、対策を検討する。 教科指導以外にも、工業について学ぶ機会を設け、生徒の工業に対する興味関心を高め、主体的な取り組みを促す。 コロナ禍における学校行事の在り方について、生徒たちに考えさせ、企画や準備を支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善した教育課程の策定や検討が行えたか。職員のICT活用率が向上したか。 資格取得を促進し、ジュニアマイスター取得者数を増やすことができたか。また、コンテスト等への支援体制が向上したか。 コロナ禍による制限がある中で、安全安心な生徒会行事が実施でき、生徒に成功体験を積ませることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の再検討については現在継続中である。ICT活用については授業改善の一環として公開授業を行い、職員の意識、技術の向上を図れた。 ジュニアマイスターは校内表彰を含め23名(特別表彰1名、ゴールド1名、シルバー2名、ブロンズ13名)、向工マイスター6名)が認定された。各科でコンテスト等への参加及び活躍がみられた。 体育祭にて、感染対策が取れる種目を検討し、実施につなげることができた。 安全安心な文化祭を実施できた。コロナ禍のため制限してきた体育館イベントも行い、向友祭振り返りアンケートにおいても9割を超える方が「来年も来校したい」等高評価を得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の再検討については校内でさらに意見統一を図るべく、引き続き検討を進める。ICT活用については職員間での意識やスキルの違いがあるが、意識改革も含め校内での活用を進める。 上級資格の取得を目指す生徒の増加に対し、classroom等のアプリを活用し、連絡や教材の共有を図り成果につなげたが、取得支援体制の一層の構築を図る。また、受講人数の少ない資格を隔年開催にする等、運営面の効率化負担軽減を図りたい。 今後、コロナによる制限が緩やかになる中、従前の良さをどれ程活かしていけるかが課題。オンラインを併用することで、より効率的で効果的で新しい形も検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 品質改善活動的に捉えれば、現在の達成状況は問題解決の手順として、対策検討段階である。ここまでの活動を次年度の工程に基づく対策を立案し、事実に基づき評価して満足度のいく結果が得られるよう活動されたい。 ICT活用にはまずコンテンツの充実が必要。 学校行事を通して自発的意欲の情勢、成功体験の積み重ねをお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の再検討については校内での検討、調整が必ずしも十分ではなかった。ICTの活用については昨年度より先に進んでいるが、校内全体としての取組みをさらに進める必要がある。 資格取得を通じた自己のキャリア形成については、ジュニアマイスター取得者数の増加をみても成果があがった。また、各科のコンテストへの取り組み状況も充実しており、引き続きスペシャリストの育成をめざして取り組んでいきたい。その中で、資格指導やコンテスト等への技術指導が特定教職員の負担増加にならないよう実施方法や運用を検討していきたい。 生徒が主体的に活動できる安全安心な生徒会行事を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の再検討については校内での調整を進め、令和5年5月の完成を目指す。ICTの活用についてはコンテンツの充実、共用化を進める。 上級資格等については、職員の負担が偏らないように、組織として対応し、各科連携をして取り組みたい。classroom等の生徒が共通で使用できるコンテンツも増えたので有効に活用していきたい。また、受講人数の少ない資格は隔年開催にすることで、生徒のニーズにも合うかたちで実施していきたい。 リアル開催とオンライン開催の良いところを活かしつつ、より効率的で効果的な形を検討し実践していく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 自己の成長を意識させ、社会人としての基礎力を身に付けさせる。 学校行事や部活動を通じて、責任感、協調性、自主性の涵養を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけさせる。 教育相談体制を強化し、情報共有の充実に努めながら、問題行動等の未然防止と問題解決を図る。 生徒の主体的な活動への支援を通して、自立心や責任感を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶・服装・頭髪・遅刻等、粘り強く指導を行う。 課題を抱える生徒に対して、職員間及び、職員とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、組織的な対応を進める。 コロナ禍における部活動の在り方について、部員たちに考えさせ、合理的で効果的な活動ができるよう支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導等の件数が前年度より減少したか。 学年や教科間の連携及び、教育相談との連携による組織的な対応ができたか。それにより解決や好転したケースが見られたか。 コロナ禍による制限がある中で、合理的で効果的な部活動が行えたか。また、生徒に成功体験を積ませることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導の件数は登校日数が通常に戻ったこともあり、前年度より増加した。 困り感のある生徒についてケース会議を実施する等組織的な対応ができた。改善に向くケースを増やすべく、学校でできる手立てを丁寧に実践した。 向の岡工業高校の部活動の方針を定めた。それに準じ各部活動において、合理的で効果的な活動を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も粘り強く、遅刻を含め、挨拶・服装・頭髪等の指導を継続し、生徒の意識改革を図る。 困っている生徒や教員を見逃すことのないよう、学年内や関係グループとの情報共有をより密にしていく。 学業との両立のためにも必要な休養を取らせながら、部活ごとに定めた目標を達成できるよう活動を支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動がコロナの制限が外れて通常に戻る中で、生徒指導件数等がコロナ以前の状況に戻る傾向の中、生徒指導については学校の指導だけでは限界がある(先生方の指導力の有無ではなく)。保護者との連携が「カギ」であり推進されたい。 生徒一人一人の個性を尊重しつつの指導、支援をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対応もしたうえで指導は負担も大きく、生徒への対応が必ずしも十分できたとはいえない。登下校時のマナーの対応などは、保護者との連携も考える必要はある。 困っている生徒についてケース会議等を開催し、情報共有や支援策について対応することができた。一方で支援策を考えていても、登校しないなど支援が行き届かない生徒も一定数いる。 部活動の方針を定め、各部活動において合理的で効果的な活動を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までのようなコロナ対応は今年度で一定の区切りがつくと思われるため、従来通り粘り強く個々の生徒に関り、意識改革を図っていく。 SCやSSWとの連携をより密にして、必要な支援をタイムリーに行えるような支援体制を整え実践していく。 部活動の方針の確実な定着を目指す。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の充実を図る。 ・社会的・職業的自立に資するよう、労働観、職業観を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択における進路指導の充実を図る。 ・専門業者と連携し、労働観や学習観における知見の拡大を図りミスマッチの未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報提供におけるICT活用により迅速な情報提供を行うことで、進路に関して相談の時間を確保する。 ・専門業者利用による説明会やセミナーの開催、大学進学者の実力把握のための模擬試験や論文指導を行い、視野を広げ自己研鑽できるように導く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用により生徒がより多くの情報を確認し相談する時間を確保できたか。 ・就職や進学において、自己の実力を把握し進路選択に役立てることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により相談時間が確保できたことで、1次内定率が昨年度の72.6%に対し、今年度は80.6%となった。 ・専門業者及び学年と連携し、自己研鑽を行える環境を整えたことで2月末現在、就職希望者の内、学校斡旋を希望し内定した生徒が99%、進学希望者の内、推薦を利用し合格した生徒が100%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により、いつでも情報閲覧ができるようになったが、ICT環境のない家庭において学校以外での情報収集ができないことから、他の生徒と差が出ないよう担任・保護者等と連携し、きめ細やかな支援を行っていく。 ・実力以上の企業・入試を選択した生徒が不採用・不合格といった結果を繰り返して2月末現在も若干名活動している。生徒の希望に近づけるため専門機関や保護者等と連携し、選択肢や視野を広げ、よりよい進路決定ができるよう支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票に係る就職指導へのICTの導入による、生徒の就職先検討活動等の成果が出ている。更に次なる課題・改善方策への取り組みをお願いする。 ・取得した資格が仕事に活かせるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職において、求人票のICT化により2,000社に及ぶ求人票の入力時間を短縮することができた。この効果により生徒の相談時間を例年より多く作ることができ、結果、前年度より1次内定率を8%増加させることができた。課題としては、話せない、希望動機不明確という理由から不採用が続く生徒が例年より多く出ていることである。 ・進学において、今年度より専門業者と連携し8月に模擬試験及び論文指導を行い進学先との実力にミスマッチがないように、実力把握を行った。結果、進学先の選択において自己を理解し、実力に見合った学校の選択及び入試方法(推薦・総合型選抜等)の選択ができた。課題は、当該指導をより早く実施することで、データを踏まえた適切な入試方法を選択し、合理的な受験準備ができるような指導を進めることである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関しては、意識を早いうちから育成するため、進路支援グループ主催の説明会や講演会・ガイダンス以外に担任との連携によりLHRを利用し、自己理解や適正理解・様々な情報を収集し社会人として必要な能力及び資格を身につけさせるようなカリキュラム作成に努める。 ・進学に関しては、就職同様進路支援グループ主催の取組以外にも担任と連携し1学年から意識を開拓していく。更に、8月に行っていた模擬試験を4月に変更し早い段階から実力把握をさせることで実力からかけ離れたような試験方式を選択しないように自己理解をさせ、指導を行っていく。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域とともに育つ向工」を実現し、「地域で活躍する向工生」を育むために、地域社会との連携による教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域とともに育つ向工」を実現するため、ホームページや説明会等で本校の教育活動を発信する。 ・「地域で活躍する向工生」を育むために、地域や企業との連携事業を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を行いながらの活動となるため、ホームページや動画等を充実させ学校活動や魅力を積極的に広報活動を行う。 ・自動ハンドベル演奏やものづくり体験教室等をとおして、自ら考える力やコミュニケーション能力、ものづくり教育を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを利用して学校の行事や活動の紹介を通して学校の魅力を積極的に発信することができたか。学校説明会参加者、受検者が増えたか。 ・ものづくり体験等に生徒が積極的に参加協力し、自ら考える力やコミュニケーション能力、ものづくり教育を育むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策をとりながらの学校説明会ではあったが、多くの参加があった。体験教室やテックラボにも多くの参加があり学校の広報活動が行えた。また、ホームページ更新も積極的に進めている。 ・感染症対策が必要な状況であり、生徒が参加できる行事等に制限がある中で、丁寧な準備で教育的効果を高められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜での志願者が定員に至らなかった。学校説明会、体験教室等を通して本校の魅力を伝えられるよう学校紹介の方法・内容の検討を進める。ホームページも一層訴求力を高める工夫をする。 ・今後生徒の参加できる行事が増えることを活かし、積極的取組で地域での存在感を高めながら、コミュニケーション能力等を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学志願者が定員に至るよう文化祭等でよりアピールできるとよい。 ・地区清掃活動に感謝。町会行事へ校則とコロナ感染状況を考慮し向工の良さをアピールできる形で生徒参加を進めたい。 ・CO2削減のため生ごみのリサイクルを。コンポスト導入には川崎市の助成を活用されたい。 ・高校生でも地域社会の構成員意識の醸成を。 ・久地駅等ハンドベル演奏披露、ものづくり体験教室等で、地域に対し向工の存在感を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策をとりながらの学校説明会だったが多くの参加者があった。入学者は定員に至らなかった。入学者の多くが体験教室・テックラボ・説明会等の参加者であった。 ・ホームページ更新も積極的に進んでいる。また、パノラマビューも導入予定であるので校内案内の充実を図りたい。 ・生徒が参加できる行事として多くはなかったが、コンピュータ制御のハンドベルロボットを2駅で演奏することで、生徒が主体的に参加する形で学校アピールに貢献できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の学校説明会の内容を検討し、中学生に本校の特色・魅力を一層伝えていきたい。また、体験教室であるテックラボを複数回行い、各科の特色を体験・理解し本校への志願者を増やす。 ・ホームページの更新を行い、わかりやすいホームページの運営を目指す。 ・今後次第に制限を緩和しながら生徒の参加できる行事が増えることを活かし、積極的取組で地域での存在感を高めながら、生徒のコミュニケーション能力等を育む。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の情報機器の整備と防災教育を推し進め、安全安心な教育環境を構築する。 ・全ての職員の資質向上を図るとともに、風通しの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した生徒対象の風水害マニュアルについて、生徒・職員に周知する。 ・事故防止研修を行い、事故不祥事の未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の防災訓練において、風水害に関する訓練も実施し、保護者等にも周知する。 ・初めて私費会計を担当する職員への連絡を密に行い、業務がスムーズに行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルにのっとった職員研修・防災訓練が実施できたか。 ・県の私費会計基準にのっとった業務処理が行え、事故や不祥事は起きなかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に則り、地震・風水害・火災・帰宅訓練の集合練習等の防災訓練が実施できた。 ・県の財務事務調査で、私費会計事務での大変高評価と改善課題との両面での指摘があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送設備の音量調節や、校舎外に避難した時の拡声器の使用等について、調査・検討していきたい。 ・左記調査での高評価をさらに活かし、一層精度と効率性を高めた私費会計事務を实践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の災害を想定した防災訓練の定期的実施ができるようになり素晴らしい。 ・在校時に大災害が起こった場合にどう行動すべきかの指導・訓練をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に則り、地震・風水害、火災、帰宅訓練の集合練習等の防災訓練ができた。放送設備等、確認すべきことが見えた訓練でもあった。 ・県の私費会計基準に則った事務処理を行うための取組への工夫の効果が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送設備の確認等を事前に行い、より実践的な防災訓練について検討を進めていく。 ・今後も適切な私費会計処理に努める。